

地球史探訪

平成12年6月11日付け

大和心とボーランド魂

20世紀初頭、765名の孤児をシベリアから救出した日本の恩をボーランド人は今も忘れない

1. ボーランドからのメッセージ

とを決定した。

平成11年8月に、ボーランドから「ジエチ・ブ

オツク少年少女舞踏合唱団」が来日した。合唱団は

オットー・ヘンリク・サドスキさん(88)からの次のような

メッセージを携えてきた。

20世紀の初め、孤児が日本政府によって救われました。

シベリアにいたボーランドの子供は、さまざまなかつて、その恐ろしいところから日本に連れて行き、その後、祖國に送り届けられました。

20世紀の初めの孤児救出とは、どのような

出来事だったのだろうか?

2. せめてこの子供達だけでも生かして祖国に送り届けたい

シベリアは長い間、祖国独立を夢見て反乱を企てては捕らえられたボーランド愛国者の流刑の地だつた。1919年、ボーランドがロシアからようやく独立したが、ロシア国内は革命、反革命勢力が争う内戦状態にあり、極東地域には政治犯の家族や、人々は飢餓と疫病の中で、苦しい生活を送っていた。とくに紳を失った子供たちは極めて悲惨な状態に置かれていた。せめてこの子供達だけでも生かして祖國に送り届けたいとの願いから、1919年9月ウラジオストク在住のボーランド人によつて、「ボーランド救済委員会」が組織された。

しかし翌20年春にはボーランドとソビエト・ロシアとの間に戦争が始まると、孤児たちをシベリアで送り返すことは不可能となつた。救済委員会は欧米諸国に援助を求めたが、ことごとく拒否され、窮屈の一策として日本政府に援助を要請することにし、市町村が主導する保育所の利用を希望する場合は、現行の新施設では、まず保護者が施設探し

4. 手厚い保護

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で病気治療や休養した後、第一次はアメリカ経由で第二次は日本船により直接祖國ボーランドに送り返された。習慣や言葉が違う孤児たちを世話をすることは、孤児第一陣がウラジオストクを発つて、敦賀経由で東京に到着した。それから、翌21年7月まで5回にわたり、孤児375名が来日。さらに22年夏には合計765名に及ぶボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

日本に到着したボーランド孤児たちは、日本で手厚い保護を受けた。孤児たちの回想では、特に印象に残っていることとして以下を挙げている。

6. シベリア孤児の歴史

8. 長年の感謝の気持ち

95年10月、兵藤長雄ボーランド大使は、8名

の孤児を公邸に招待した。皆80歳以上の高齢で、

一人のご婦人は体の衰弱が激しく、お孫さんに付き添われてやつとのことで公邸にたどりついた。

私は生きている間にも一度日本に行くことが

あります。

私は生きている間にも一度日本に行くことがあります。

世界の邦字紙から

最近のパラグアイ事情 坂本邦雄

坂本邦雄さん(82、神奈川県横浜市)は元パラグアイ移民だ。昨年パラグアイ移民は75周年を迎えたが、坂本さんは南米にきて78年目。4歳の時、最初に入植したのがパラグアルモジアナ線カニンデ駅のコーヒー耕地だったからだ。両親に連れられて坂本さんはアンシンオンに到着したのは1935年10月、先陣としてラ・コルメナに乗り込んだのは翌36年5月15日、この日が「パラグアイ土地なし農民の日」となった。以来、同国の政治経済を詳しく見てきた坂本さんは、まさにイグアス移住地に起きていることの延長線上にあるといえる。

(編集部)

ブラジルとは 兄弟分の仲

日本は、1936(昭1)年の5月15日に米州各国中、最も親日本として日本政府も認めるパラグアイに於ける日本集団計画移住の起源は、1936(昭1)年の5月15日にラ・コルメナ植民地が建設されたのに端を発す。その起因は、時のパルガス政権によって移民二分制限法が34年に発布され、日本人パラジル渡航が大きな打撃を受けるに至ったことだ。日本の拓務省はコロン

ビア、ドミニカその他国への代替移民受け入れ先の物色に当たつたが、最終的にパラグアイに白羽の矢が立ち、パラグアイに於ける戦前最初にして唯一の日系植民地ラ・コルメナの建設を始めたのである。

しかし、パラグアイはその頃、ボリビアとアルゼンチンとの間で争いがあり、パラグアイはその分身たるラ・コルメナの植民地は、元々のパラグアイに於ける戦前最初にして唯一の日系植民地ラ・コルメナの建設を始めたのである。

これは取りも直さず、ラ・コルメナが当初謀された試験移民の民族的使命を十二分に果たした。59年には親日家だった日本人農業移民1000人で構成される新幹線軌道で奥大道上を走る。その結果、青森までわずか4時間の旅費で奥大道上を疾走していることに、わたしは深く感じ入った。

わたしの迷想がまた今までの交易をたすけた「奥大道」の存在に今、注目が集まっている。わたしの迷想がまた今までの交易をたすけた「奥大道」の存在に今、注目が集まっている。

わたしの頭をもたげる迷想を通り越し、もはや妄想の域かもしれない。太古、スンダランド海峡を渡つて北米大陸入りする。いつばら日本列島に渡らず大陸に留まつた北上派の一部は、さらに北進して陸続きだったペリーング海峡を渡つて北米大陸を切り離され、田沢湖線をたどつて秋田駅へ向かう。

わたしは深く感じ入つた。東京から3時間ほどで邂逅という國だ。トヨシオ同士、2万年の歴史を渡つてやつて来る。パラグアイは、よく知られるようにモングロイドといふ言質人類学上の同族である。祖先の中の物好きのジオは、よく知られるようにモンゴロイドといふ言葉は生まれ、それを以つて土地なしの不法侵入を暗に煽り、地券の正当性が怪しむ。官有余剰地に所属する疑いがあると云う口実を以つて土地なしの不法侵入を暗に煽り、地券の正当性が怪しむ。官有余剰地に所属する疑いがあると云う口実を以つて土地なしの不法侵入を暗に煽り、地券の正当性が怪しむ。

わたしは黙り、じいの才を以つて土地なしの不法侵入を暗に煽り、地券の正当性が怪しむ。

このくろうども

移民の苦労を子供たちに

少しでもブラジルを良い国に。パラナ州ロンドリーナ市にあるリーガ・アリアンサ(パラナ州文化連合会)の会館で4日まで、色のついた糞を貼り付けて作るモザイク絵画展「Exposição Mosaico de Atroz」が開かれた。同市とリーガ・アリアンサの共催。移民、ブラジルの歴史をもとにした58作品がされた。制作にあたった同市在住の後藤英子さん(68、三世)、植田安晴さん(74、二世)の「移民の苦労を、コロニアやブラジルの子供たちに伝えたい」との思いが込もった温かみにあふれた作品が並んだ。

半身不隨の苦労を乗り越えて

少しでもブラジルを良い国に。パラナ州ロンドリーナ市にあるリーガ・アリアンサ(パラナ州文化連合会)の会館で4日まで、色のついた糞を貼り付けて作るモザイク絵画展「Exposição Mosaico de Atroz」が開かれた。同市とリーガ・アリアンサの共催。移民、ブラジルの歴史をもとにした58作品がされた。制作にあたった同市在住の後藤英子さん(68、三世)、植田安晴さん(74、二世)の「移民の苦労を、コロニアやブラジルの子供たちに伝えたい」との思いが込もった温かみにあふれた作品が並んだ。

糸のモザイク画で歴史伝え

後藤さんと植田さんが展示

少しだけでもブラジルを良い国に。パラナ州ロンドリーナ市にあるリーガ・アリアンサ(パラナ州文化連合会)の会館で4日まで、色のついた糞を貼り付けて作るモザイク絵画展「Exposição Mosaico de Atroz」が開かれた。同市とリーガ・アリアンサの共催。移民、ブラジルの歴史をもとにした58作品がされた。制作にあたった同市在住の後藤英子さん(68、三世)、植田安晴さん(74、二世)の「移民の苦労を、コロニアやブラジルの子供たちに伝えたい」との思いが込もった温かみにあふれた作品が並んだ。

半身不隨の苦労を乗り越えて

少しだけでもブラジルを良い国に。パラナ州ロンドリーナ市にあるリーガ・アリアンサ(パラナ州文化連合会)の会館で4日まで、色のついた糞を貼り付けて作るモザイク絵画展「Exposição Mosaico de Atroz」が開かれた。同市とリーガ・アリアンサの共催。移民、ブラジルの歴史をもとにした58作品がされた。制作にあたった同市在住の後藤英子さん(68、三世)、植田安晴さん(74、二世)の「移民の苦労を、コロニアやブラジルの子供たちに伝えたい」との思いが込もった温かみにあふれた作品が並んだ。



協力者の皆さんと植田さん(右端)、後藤さん(左から3人目)左端はペドロ・アルヴァレス・カブラルの絵

ロンドリーナ笑顔増やす手伝いしたい

田中宏枝さん

23年間コーラスを指導

田中宏枝さん

ロンドリーナ笑顔増やす手伝いしたい

田中宏枝さん

23年間コーラスを指導

